

# マグロ類における緊急赤潮情報 7

令和4年8月5日  
大分県農林水産研究指導センター水産研究部

津久見湾に、有害プランクトン（カレニア・ミキモトイ、コクロディニウム・ポリクリコイデス）が注意密度を超え、分布域を拡大しています。マグロ類の管理にくれぐれもご注意下さい。

発生場所 津久見湾

発生期間 8月5日～

プランクトン カレニア・ミキモトイ

コクロディニウム・ポリクリコイデス

赤崎外 30 cells/ml（表層）

赤崎外 8cells/ml（2m層）

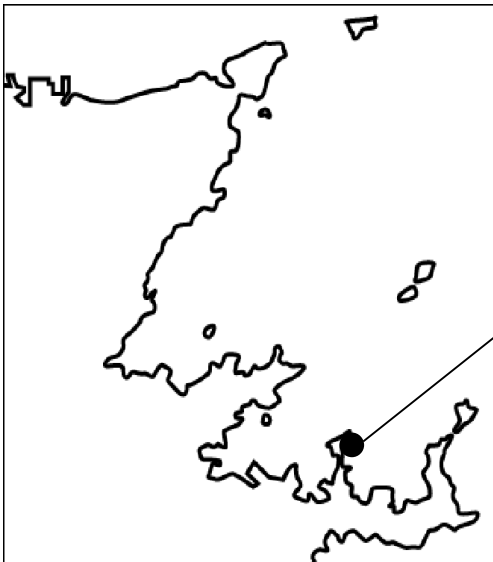
※詳細は別添参照

（カレニア・ミキモトイ赤潮の注意点）

- ・ マグロの場合 警戒密度：200 cells/ml 注意密度：20 cells/ml
- ・ カレニア・ミキモトイは魚介類の斃死を引き起こす非常に有害な赤潮プランクトンです。
- ・ 特に、アワビ、サザエ等では海面が着色する前に斃死する可能性があります。
- ・ 表層が着色しなくても、中層に赤潮を形成していることがあります。
- ・ 午前中、海色が良くても午後から色が悪くなる場合があります。
- ・ パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、蓄養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。
- ・ 低密度でも被害を引き起こす可能性があります。

（コクロディニウム・ポリクリコイデスの注意点）

- ・ マグロの場合 警戒密度：30 cells/ml 注意密度：3 cells/ml
- ・ コクロディニウム・ポリクリコイデスは魚介類に斃死を引き起こす有害な赤潮プランクトンです。
- ・ 鉛直運動するため午前中に海色がよくても、午後から着色し被害を発生することがあります。（中層で赤潮になっている）
- ・ パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し養殖、蓄養中の魚介類に被害をおよぼすことがあります。
- ・ コクロディニウム・ポリクリコイデスは低密度でも被害を引き起こす可能性があります。



赤潮発生場所での対応

- ・ 投餌は控える。
- ・ 赤潮海域へ魚介類を入れない。
- ・ 赤潮海域から魚介類を避難する。
- ・ 蓄養は控える

カレニア・ミキモトイ

30 cells/ml（赤崎外 表層）

コクロディニウム・ポリクリコイデス

8 cells/ml（赤崎外 2m層）